



自由民主党千葉県第六選挙区支部長
前衆議院議員/元経済産業副大臣

ひろみち通信

シリーズ：子育て

“ひろみち”は、現行制度を基本とし、
地域の実情や幼稚園・保育所の独自性を生かします。

- 無理して“幼保の一元化”を進めるのではなく、現在の幼稚園・保育所の制度を基本としつつ、それぞれの施設の特性を尊重すべきと考えます。
- 特に、保育については、「0歳児への親が寄り添う育児」を推進します。
- 保育所待機児童への対応は、「認定こども園」の普及を進めるとともに、処遇改善等による保育士の確保、必要な財政上の支援など効果的かつ即応性のある総合的な支援策を実施します。

認定こども園：現存の幼稚園・保育所の選択・判断によって設置可能。幼稚園には保育の機能、保育所に教育の機能を付与し、“幼保の連携”を進める制度。

民主党が進める新たな制度の問題点

少子化の進行や幼児教育・保育のニーズの多様化に伴い、待機児童など課題が顕在化しています。現在、政府・民主党は「総合こども園」を核とした『子ども・子育て新システム』を進めていますが、これには多くの問題があり、待機児童の解消にもつながりません。

1. 総合こども園などの施設には、待機児童の8割以上を占める0～2歳児の受け入れを義務付けていないため、目的の大きなテーマである待機児童の解消にはつながりません。
2. 自治体の関与・責任を弱める“指定”による保育施設では、児童の安全・安心の確保が心配されます。また、営利を追求する株式会社など企業の参入は、保育の質の低下や保護者の負担の増加を招くおそれのある“保育の産業化”に向かうものです。
3. 制度の移行期は大変複雑になり、行政の所管も、内閣府・文科省・厚労省の三重行政となります。

※ 0～5歳児の総合こども園（内閣府）、3～5歳児の幼稚園型こども園（文科省）、0～2歳児の保育所型こども園（厚労省）、0～5歳児の指定のみのこども園（厚労省）、3～5歳児の幼稚園（文科省）の5つの類型が共存することになります。

～渡辺ひろみちプロフィール～

昭和25年8月 松戸生まれ

松戸市立北部小学校、第一中学校、千葉県立東葛飾高校、早稲田大学法学部卒業

明治大学大学院法学研究科修士課程修了

松戸市職員、会社経営

平成07年 千葉県県議会議員選挙初当選

平成08年 衆議院選挙初当選

*以降四期連続当選

平成21年 衆議院選挙にて惜敗

<主な議員歴>

・経済産業副大臣 ・衆議院総務委員長

・内閣府大臣政務官・自民党総括副幹事長